

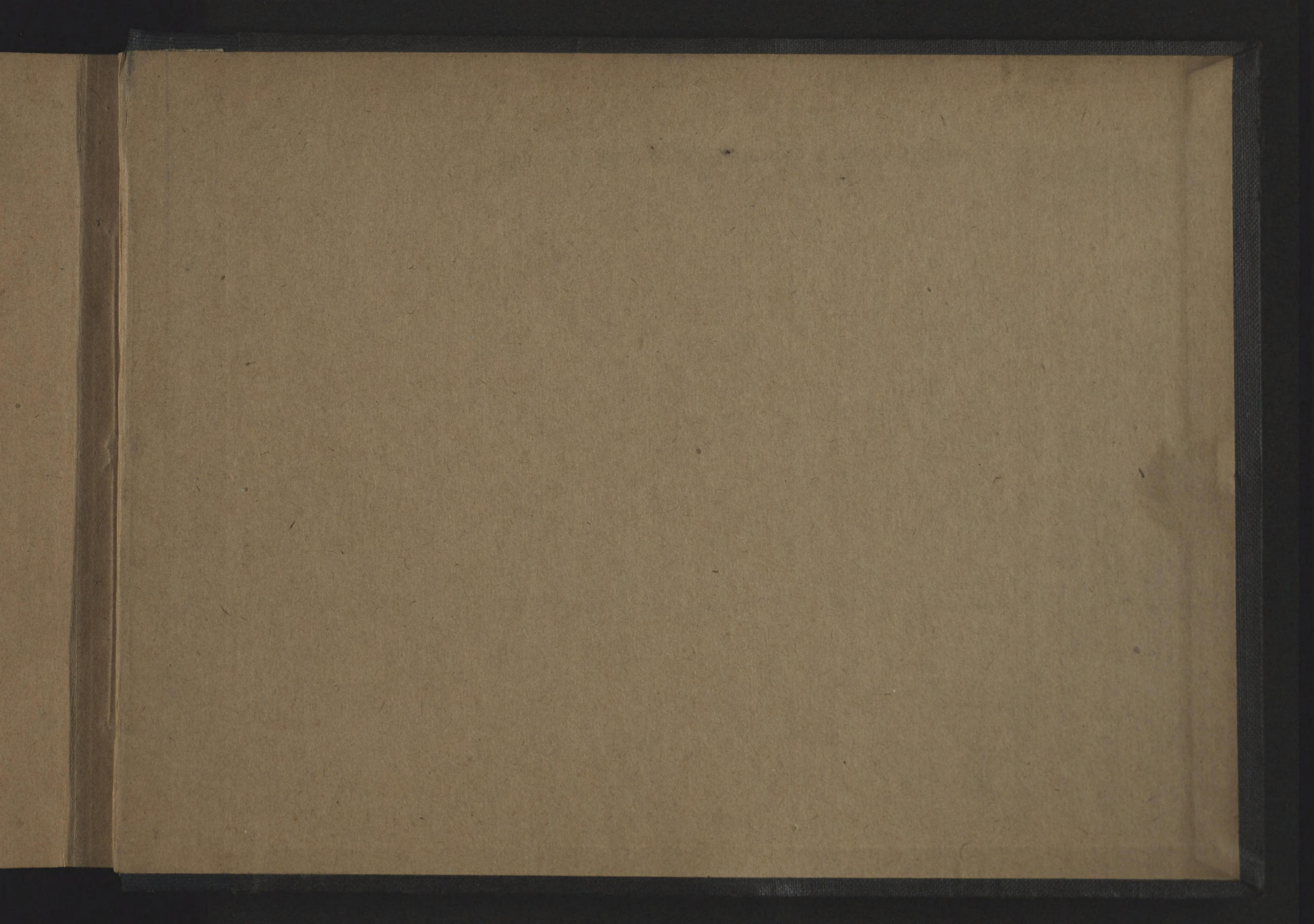
423-305

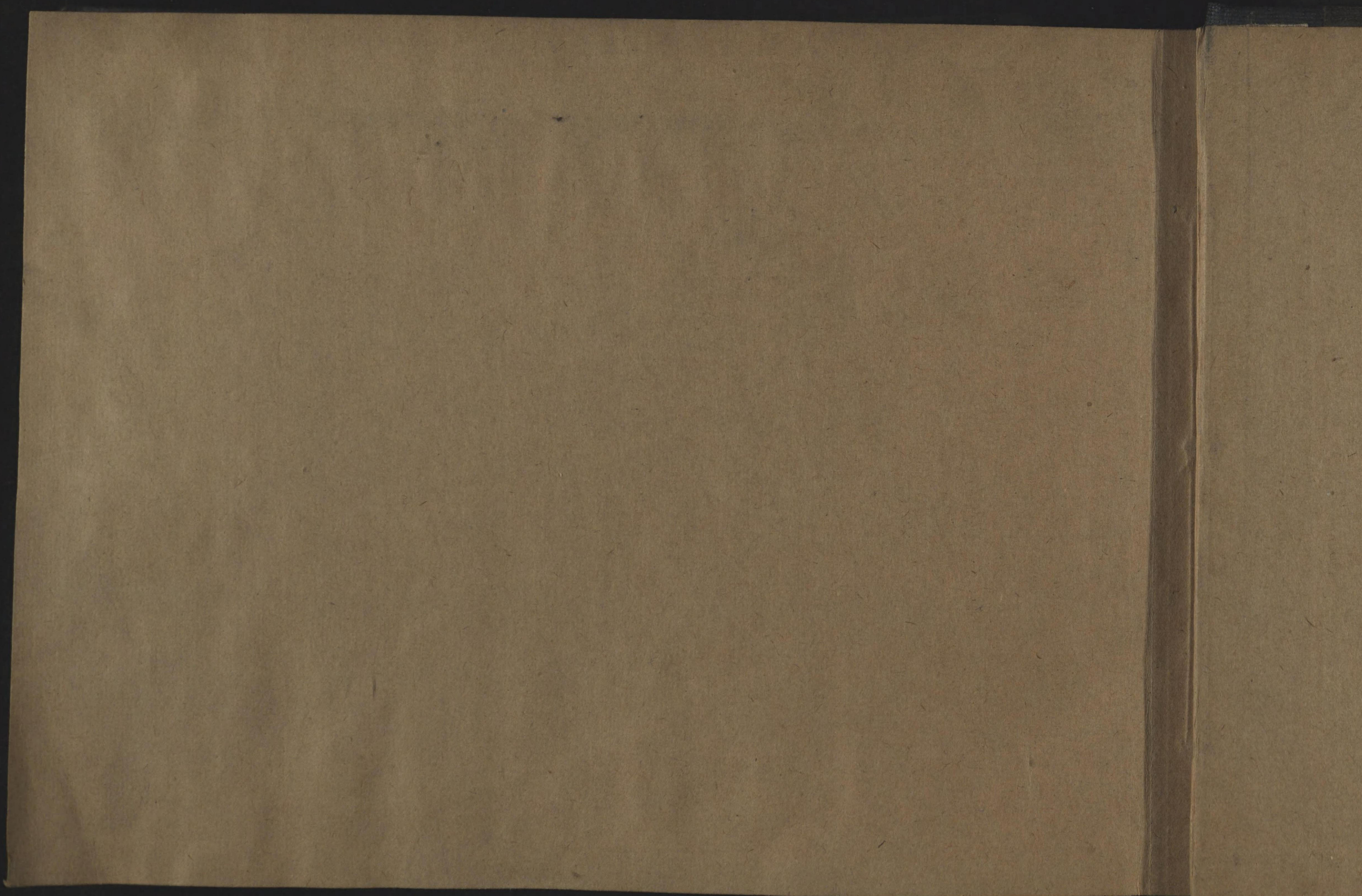


\*1200600120970\*

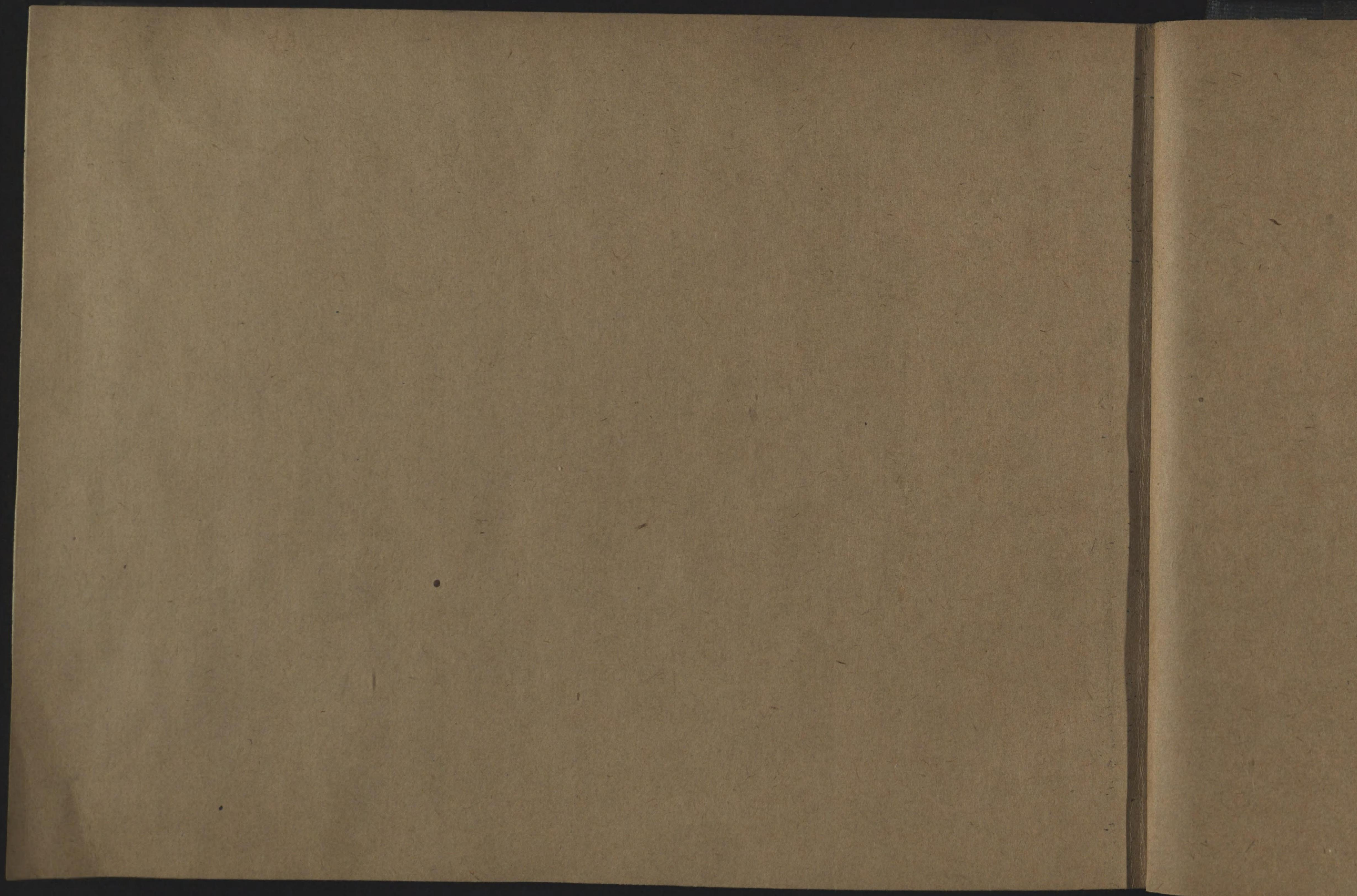
423

305











五田五ノ見寸録

版權所有 不許複製

編輯人

大連市山縣通一九三

青

山

春

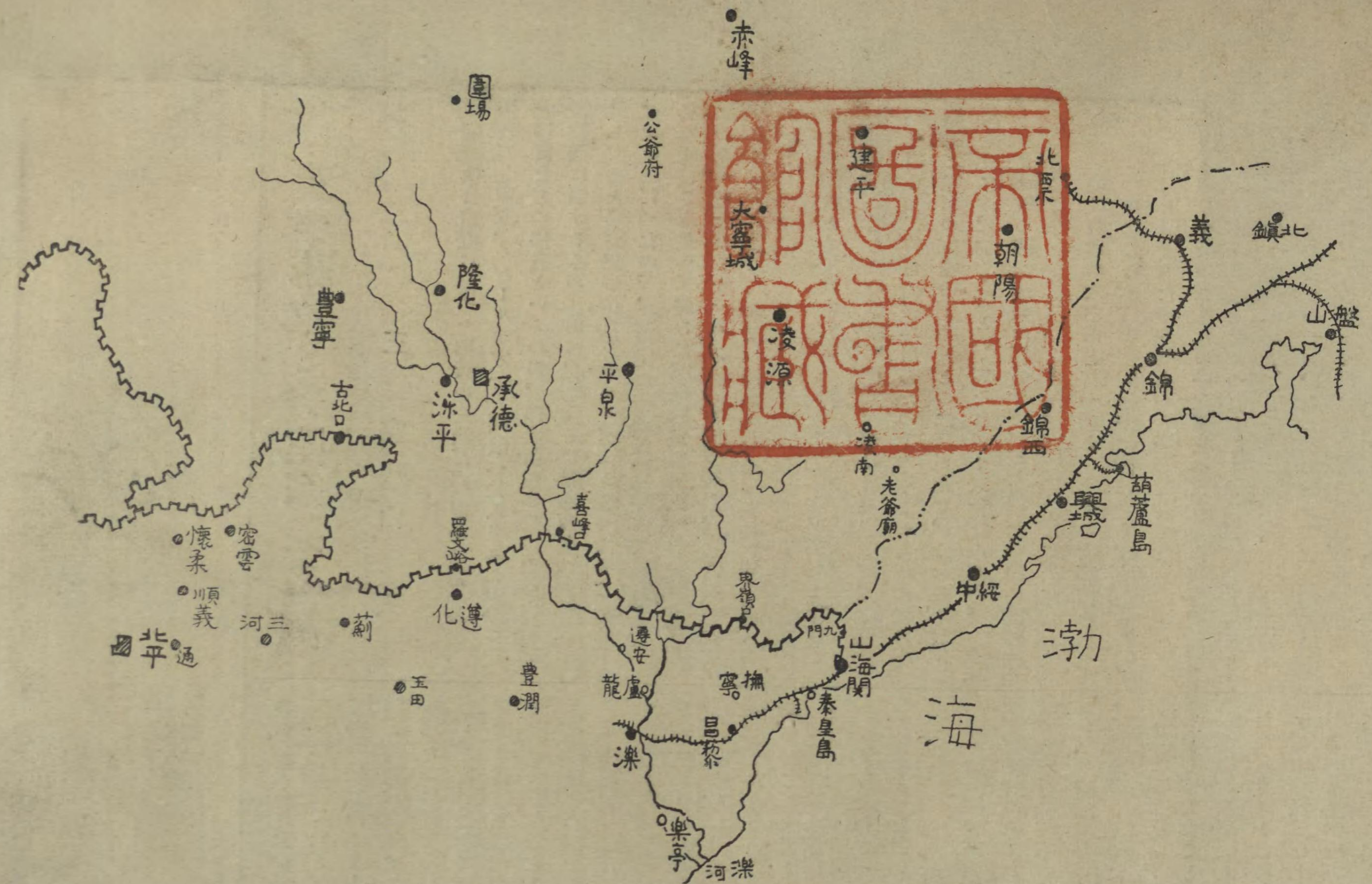
路

423-305



# 亞細亞大觀附錄

踏破撮影略圖



版權所有 不許複製  
 大連市山縣通一九三  
 編輯人 青山春路  
 發行人 島崎役治  
 發行所 亞細亞寫真大觀社

## 黃喇嘛教之普陀宗乘之廟

第百十九回  
拾壹輯壹回

- 三 室 山 人
- 普 陀 宗 乘 之 廟
- 靜 かな 山 門
- 五 塔 門
- 瑠 璃 牌 坊
- 境 内 點 景
- 五 塔 白 臺
- 大 紅 臺 を 望 む
- 大 紅 臺 近 影
- 權 衡 三 界
- 歡 喜 無 上

### 亞細亞寫真大觀社

大連市山縣通一九三  
 電話二六二三五  
 振替穴連七一八  
 發行 每月一回發行



## 黄喇嘛教と普陀宗乘之廟

三 室 山 人

喇嘛教は西藏に起つた佛教の一派だ。西曆七世紀の半頃、佛教が北印度、ネパール地方から西藏へ輸入されたが、その北印度などの佛教といふのが、印度教を多量に加へた所謂密教派に属するものであり、加ふるに當時西藏の民間に普及してゐたのが原始的なシャマニズムと言つてもよい所謂ボンポ教だつたので、北印度の密教派佛教が益々脱線し、特異な怪奇さを加へて遂に喇嘛教が出来上つた。従つて最初のラマ教にはシャマニズムの所が多く、而も次第にその方が多くなつて、本來の佛教的な要素の影がうすくなつた。

この佛教としては甚だ脱線的で墮落してゐるのに對して改革運動を起したのが宗喀巴で、彼は其の清新純正な佛教の旗印として黄色帽子を用ゐたので、そこから黄帽派の喇嘛教と従来の紅帽の喇嘛教との二種が生じ、これを略言して黄ラマ教、紅ラマ教といふ。それが十五世紀の事だ。

黄ラマ教の開祖宗喀巴の後をついだのが高弟の達賴喇嘛で、彼はラツサのポタラ(布達拉)廟に住んでゐた。だからポタラ廟は黄教の大本山と言つてよい。その大本山をまゐて建てたのが此の承德の普陀宗乘之廟だから、大本山の第一の出張所が出来たやうなものだ。

西藏のラマ教は元時代に一度蒙古へ入りこんだが、しかしこれは何程の根底もなかつたらしく、元が滅亡してからは行はれなかつたやうだ。それが明代の末頃、十六世紀の半頃から再び盛んになつたが、その時のラマ教は元代のと違つて黄派の方だ。この黄ラマ教は蒙古人の間に非常に根強く入りこんで現代に及んでゐるので、斯る蒙古民族の熱烈な宗教心を味到しなくては、何故承德に斯くまで多くのラマ

寺が建てられたかが理解出来まい。清の乾隆帝が政策的にラマ寺を建てたと言はれてゐるが、それは多分事實であつて帝の宗教心よりも一層政策が強く働いたに相違あるまい。斯る政策は少くとも太宗以來の傳統であつたが、まことに見事な着眼點であつて、清末になるとそれをおろそかにしたところが果して西藏は英國の勢力範圍になつて了つた。

清の朝廷と達賴喇嘛との交渉は、既に奉天に都のあつた太宗時代から始まり、次の世祖の順治九年(西紀一六五二)冬には遙々西藏から北京まで出て来て帝に拜謁してゐる。その時建てられたのが北平の北郊にある東黃寺であり清朝は全力をあげて歓迎し、莫大な賄物をしてゐる。達賴喇嘛を招いたのは、當時清朝が手を焼いてゐた西蒙古、新彊方面の蒙古人を、彼の宗教的勢力によつて容易に清朝に服従させたいといふ意味が含まれてあつたらしく、この一事を以ても如何にラマ教主の勢力が大きかつたかが推察される。乾隆帝に至つても新彊方面の民族間に未だ十分の勢力が及んでゐなつたのであるから、達賴喇嘛の歡心を得る必要があつた。この寺が建てられる必然性はそこにひそんでゐた。

この普陀宗乘之廟が建てられたのには少くとも表面上三つの理由が記されてゐる。その第一は母后八十歳の賀、第二は始めて普陀宗の寺が出現したこと、第三は明代の末に露西亞領の中亞へ逃亡したトルゴト民族が清領に復歸するといふ喜報であつた。トルゴト民族は熱烈な黄ラマ教信奉者であり、帝の母后も亦佛教に歸依する、こゝ厚かつたので、この寺を建てたことはまことに意義深いものであつたが、更らに此の建築によつて達賴ラマとの關係が一層密度を加へただらうことは推察に難くない。この好機を利用して、達賴ラマをして勸説せしめ、かれて清朝が希望してゐる後藏、班禪喇嘛の來謁が實現されるならば、正に一石二鳥である。尤も正史には斯る秘事が記される筈もなく、全く推察に止まるのではあるが。





普陀宗乘之廟  
(熱河承德)

普陀宗乘之廟は西藏の達賴喇嘛の住むポ  
 タラ廟をまいて造つたと言はれ、従つて達賴  
 喇嘛の寺である。ポータラを漢字で書いた  
 のが布達拉であるが、その漢字の音から今で  
 は俗にプダラ廟などと呼んでゐる。  
 乾隆三十六年(西紀一七七一)が母后八十  
 歳の賀に當るといふので、その祝賀のため  
 蒙古、青海、新彊方面から蕃族の王等が來る  
 ので、それを歓迎する意味で建てたといふ。

(印畫の複製を禁ず)



静中な山門

(熱河承德)

普陀宗乘之廟は承德第一の大寺だ。敷地の  
 廣いこと、建物の多いこと、大きいこと、す  
 べて此の寺に及ぶものはない。従つて清朝  
 やかだつた時には、ラマ僧の数が五、六百を  
 下らなかつたのに、今では十數名の僧が居る  
 のみだ。  
 山門は閉じたままで、内庭は牛の放牧場に  
 なつてゐる。この山門は西藏式に支那風を加  
 へた特異な形式である。

(印畫の複製を禁ず)



五塔門

(熱河承德)

普陀宗乘之廟は正面の山門の奥が碑閣、その次が此の五塔門になつてゐる。西藏語でラマ塔のことをチョテンといひ、その形態は必しも一様でなく、寫眞にも出でゐるやうに五種ともになつてゐるが、しつしつと總ての塔は五部に分れ、下から地、水、火、風、空の所謂五大を現はしてゐるさいふ。五大といふのは宇宙萬物を構成してゐる五大要素である。

(印畫の複製を禁ず)

亞細亞大觀 (十一輯一回の 3)

な山門

(承德)

山門は閉じたままで、内庭は牛の放牧場になつてゐる。この山門は西藏式に支那風を加へた特異な形式である。

(印畫の複製を禁ず)

亞細亞大觀 (十一



瑠璃牌坊  
(熱河承德)

五塔門から可なり離れて北方に此の牌坊がある。五塔門の前には石象があつたが、此處には石の獅子が一対置かれてある。  
 三彩の瑠璃瓦を以て造られ、色彩の乏しいラマ寺では美しいものの一である。中央の額に普門應現と刻まれてゐる。俗衆と僧侶とは此の牌坊を以て區劃され、これより北へは俗衆が入ることを許されなかつたと聞く。

(印畫の複製を禁ず)



景 點 内 境

(德 承 河 熱)

牌坊山の傾斜面を利用して諸建築が点在する。直線に敷かれたのは、自然石を雑然と置き、曲りたては、それより自然石を雑然と置き、重々、建物つて、朝のや、横など、見ると、自然石を雑然と置き、山が、四角な建築、山が、感情を、柔

(印畫の複製を禁す)

坊 牌 璃 瑠

(德 承 河 熱)

五塔門から可なり離れて北方に此の牌坊がある。五塔門の前には石象があつたが、此處には石の獅子が一対置かれてある。三彩の瑠璃瓦を以て造られ、色彩の乏しいラマ寺では美しいものである。中央の額に善門應現と刻まれてゐる。俗衆と僧侶とは此の牌坊を以て區劃され、これより北へは俗衆が入ることを許されなかつたと聞く。

(印畫の複製を禁す)

五塔白臺  
(熱河承德)

五塔ならべたものにも、下が門になつてゐるのと、單に臺のみものと二種ある。塔は本來、舍利(骨)を入れる墳墓であるから、下が臺のみの方が本來の意味をよく傳へてゐるのであるが、しかし塔がラマ教の象徴となるに至つてからは、それを應用して門としたのだ。即ち下方の衆生を往來せしめ去來往還即一道であつて、迷悟これ一如の妙理を體得せしめんためといふ。

(印畫の複製を禁ず)





大紅臺を望む  
(熱河承德)

普陀宗乘之廟の本殿さもいふべきものは、  
 大きな城とも見ゆる建築の中にある。この城  
 壁のやうな壯大な建築は下方が石造、上方が  
 煉瓦造で、表面に紅色の漆喰が塗つてある。  
 それで大紅臺といふ名がつけられ、又蒙古語  
 などから採つた言葉で都綱、即ちツガンとい  
 ふ字が用ゐられる。このやうな城壁式の建築は全く西藏式あつて  
 て、支那では見られない偉観である。  
 (印畫の複製を禁ず)

亞細亞大觀 (十一輯一回の 7)

白臺  
(承德)

微となるに至つてからは、それを應用して  
 としたのだ。即ち下方の衆生を往來せしめ  
 去來往還即一道であつて、迷悟これ一如の妙  
 理を體得せしめんためといふ。  
 (印畫の複製を禁ず)

亞細亞大觀 (十一



大紅臺近影

(熱河承德)

大紅臺は驚くべき大きさではあるが、しかし文字通り臺であつて、内部を使つてゐるのでは、眞實の窓が開いてゐる上方の三層分だけである。正面壁の中央には瑠璃瓦で造つた美しい佛龕が六層あり、その頂上にも亦瑠璃瓦製の彫刻が置かれてゐるので、瑠璃瓦全體で一つの佛塔のやうな形を呈してゐる。色のあせた紅色の壁の中で、これが唯一の彩色美だ。

(印畫の複製を禁ず)





大紅臺影近  
(熱河承德)

大紅臺は驚くべき大きさではあるが、しかし文字通り臺であつて、内部を使つてゐるの  
 であら。眞實の窓が開いてゐる上方の三層分だけ  
 正面壁の中央には瑠璃瓦で造つた美しい佛  
 龕が六層あり、その頂上にも亦瑠璃瓦製の彫  
 刻が置かれてゐるので、瑠璃瓦全體で一つの  
 佛塔のやうな形を呈してゐる。色のあせた紅  
 色の壁の中で、これが唯一の彩色美だ。

(印畫の複製を禁ず)

權衡三界  
(熱河承德)

大紅臺の最も高い處に金色の瓦が輝やく建  
 築が二つ見ゆる。東の八角亭が此の寫眞、西  
 方の一層高い所に六角亭が聳つてゐる。  
 八角亭の額には權衡三界とあり、中に佛像  
 をまつる。その左にある一棟の建築は御座樓  
 この南には戲樓があり、劇を見下ろすことが  
 出来るやうになつてゐた。今では大半破壊し  
 て壁に柱のあとが凹んでゐる。

(印畫の複製を禁ず)

歡喜無上  
(熱河承德)

つて大紅臺の内部は、前記の通り三層分だけ使  
 こゝには破壊して内部の周圍に三層の樓があつたが  
 法一殿と呼ぶ金色瓦の本堂が昔ながら姿を  
 存してゐる。黄教宗祖の宗喀巴その他の佛像を  
 まつる内部には八角寶塔、寫眞のやうな歡  
 喜佛の印度から西藏へ輸入  
 したものだ。だが、西藏で一層ケロ味を加へた  
 のさだにも見るだ

(印畫の複製を禁ず)

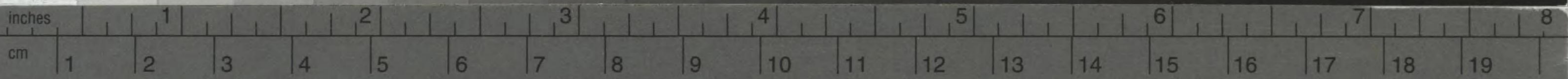


# Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

**A** 1 2 3 4 5 6 **M** 8 9 10 11 12 13 14 15 **B** 17 18 19



# Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

